



『大学スポーツ協会 UNIVAS』 事業説明会の開催 **加盟！！**



2023年6月7日(火)12:30~13:30 成蹊大学において、体育会各運動部の学生幹部(約70名)を対象にして、「大学スポーツ協会 UNIVAS(ユニバス)の事業内容の説明会」が学生部主催、講師 UNIVAS 篠崎常務理事他にて開催されました。2023年4月に成蹊大学は「大学スポーツ協会 UNIVAS」に加盟しました。

大学スポーツ協会は、大学スポーツの発展を目的として、運動部学生のデュアルキャリア形成支援事業や大学スポーツの安全安心な環境確立事業等を展開しています。

これらの事業は、運動部学生に限らず、指導者や OBOG も対象にした多方面に渡る種々の研修会やセミナーが無料で受講できるとともに、運動部の活動に必要な諸情報やサービスの提供も数多く含まれています。

これらの事業は、体育会学生の人間力の向上と安心・安全なスポーツ環境の確保、そして OBOG 指導者の資質の向上なども期待され、今後の成蹊大学体育会の更なるレベルアップに大いに繋がっていくと考えられます。体育会の学生及び指導者、OBOG の積極的な参画をお願いします。

寄稿 体育会 OBOG 連絡協議会 会長 御厨雅宏 (69工機卒)

アーチェリー2023年度リーグ戦 **男子2部1位 女子1部維持**



コロナ禍により関東地区リーグ戦が一変してしまいました。コロナ禍以前は1対1で戦って総当たりの結果で順位を決め、順位を決めるのに5週間が必要でした。2020年度はコロナ禍のために中止となりました。その後リーグ戦期間を短縮する対戦方式に改めるなどの感染防止策を採ってリーグ戦を再開しました。

今年度は各リーグ所属校が一堂に会して同時に戦う記録会方式を採りました。1部リーグは4月16日と23日、2部・3部リーグと未登録校は4月15日と22日の2回記録会を行い順位を

決めました。各リーグには基本12校が所属し、各リーグ下位4校が下のリーグの上位4校と入替戦を行いました。会場は東京オリンピック・パラリンピックが行われたレガシーの夢の島公園アーチェリー場です。大変広い会場で、この会場を使用できたので12校が一堂に会するリーグ戦を行うことが出来ました。また、リーグ戦は50mと30mの距離で戦ってきましたが、今年度から1部リーグはオリンピックと同じ70mで戦いました。距離が延びるほど矢は放物線を大きく描きながら飛んでいくため風や雨などの自然の影響を受けやすくなり、正確な射技に加えて自然環境対応力も求められます。

男子は2部リーグ所属で、2回の記録会で2回とも1位になり、1部2部入替戦に進みました。女子は1部リーグの10位で1部2部入替戦に臨みました。入替戦は8校で戦い、上位4校が1部リーグになります。入替戦は朝から雨の降る5月7日に、50m・30mで戦いました。



前日までの暖かさと打って変わった寒い日でした。午前に男子の試合があり、善戦しましたが5位となり、1部昇格をあと一步で逃して2部残留となりました。午後に女子の試合が行われましたが、気温がどんどん下がり、風雨も激しくなり、濡れた身体に吹付ける強風に体温を奪われる過酷な環境での戦いになりました。前半終了時には5位でしたが、その後目まぐるしく順位は入れ替わり、終盤で逆転して4位となり1部を維持することができました。最後まで気力を保ち、諦めずに1射1射を丁寧に射ったことが逆転に繋がりました。

1部リーグはセレクション校が多く高い壁ではありますが、来年度は「男女ともに1部」を果たしてくれることを祈っています。
アーチェリークラブ OB・OG 会副理事長 中田光俊（75年経卒）

スキー部からの活動報告 **頑張ってますよ！**

去る2023年3月5日～6日、長野県野沢温泉スキー場で4年ぶりになる四大学運動競技大会スキー競技が開催されました。



我が成蹊大学は、女子2名男子1名計3名の少数精鋭の参加人数ですが、スキー部OB皆さん10名参加いただき大会運営のお手伝いいただきました。両日ともに天気に恵まれ、5日アルペン競技、

6日ノルディック競技とも無事大会を行うことができました。

我が成蹊大学は、5日アルペン競技は女子回転・大回転では「荻野姉妹が圧巻のワンツーフイニッシュ、男子も1年生坂本君が回転優勝、大回転準優勝と大活躍しましたが、6日のノルディック競技で宿敵学習院大学に逆転を許し四大学対抗戦準優勝となりました。しかし当校は3名での参加でしたので、全力出し切った結果であり良く頑張ったと思います。

最終種目のノルディック競技のリレー競技では、各大学の部員数ではチーム編成ができないため一部混合チームとして全員参加の編成をして競技を行いました。大学間の垣根を越え学生同士で参加し応援するそのような姿に、お手伝いに来ていたスキー部OBの諸先輩方も皆さん目を細めながら応援をしていました。

また今回四大当番校でもあり、6日最終日は学生支援部熊崎課長さまも現地にご来場いただき賞状の授与と閉会式でのご挨拶をお願いしました。ありがとうございました。

部員数減少は、四大学各大学も同じ悩みでもありますので、補う形でチーム四大として学生間で交流続ける、その上でOBOG会が支援を続けていきたいと思っています。



寄稿 スキー部 OBOG 会（雪蹊会）会長 若穂圀四郎（85年経卒）

ワンダーフォーゲル部（石楠花会）から総会の報告

第45回成蹊桜祭当日、体育会ワンダーフォーゲル部 OGOB 会（石楠花会）は令和5年度総会を4年ぶりに開催しました。総会には創立メンバー55年次（1955年入学・以下同じ）竹村さんから今年卒業の新人OB（19年次）まで30名が出席、現役部員8名も出席しました。彼ら現役部員は4年含め全員が入学後初めてのOB会。多勢のOBとの初対面となり、厳かな？ OGOB 会の雰囲気緊張気味でした。



総会は 65 年次花上会長の挨拶にはじまり、活動報告の他 OB 会長会連合会加盟についての経緯説明や、3 年後の創部 70 周年記念事業への取組みなど、3 年分の空白を埋め戻すようにたくさんの議題を討議しました。またコロナ禍でほとんど活動が出来なかった現役部員に、活動再開するにあたり成蹊アルピニズムの継承者として自覚を持ち、体育会クラブとして品位を忘れず行動してほしいと、石楠花会の方針や姿勢を明確に伝えました。最後にはご多忙の中駆けつけてくださった顧問教授小田経

済学部長にご挨拶をいただき、体育会ワンダーフォーゲル部は無事再スタートをすることができました。

そして午後からはビアレストランに会場を移し OGOB 現役交歓会を開催。冒頭この中断の間に亡くなられた 54 年次木村元会長はじめとする会員各位への黙祷を行い、その後はビールを楽しみながら、ご出席の方々の近況をお聞きしました。OB たちがそれなりに老いていることで 3 年のタイムラグがほんとに長い時間だったことを実感し、あたりまえの日常生活とはこんなに楽しいものなのかとしみじみ思いました。

桜祭後、待望の谷川岳虹芝寮の利用再開も決定し、虹芝寮 OGOB 現役交歓山行を 6 月第 2 週に開催することも決定しました。

さあ、みんなで山へ行こう！そして虹芝寮の薪ストーブの周りで旨い酒を呑み交わそう！！



寄稿 ワンダーフォーゲル部 OBOG 会 (石楠花会) 副会長 千葉和幸 (78 年法卒)

漕艇部『第 101 回全日本ローイング選手権大会』出漕報告 **活躍を知って！**



来る令和 5 年 5 月 18 日～21 日、海の森水上競技場で開催。3 年の國廣萌子 (法・政) が女子シングルスカルの部で出漕。結果は Final C 総合 16 位でした。

昨年出漕も予選敗退、今年は Final C に進出。一つ上のステージに上がることができました。一方で敗者復活戦であともう一步で準決勝、Final B を逃し本人も相当悔しがっております。詳細は以下、ご覧ください。

予選は漕艇の競技の特徴で、東京五輪の代表選手や元 U23 の日本代表の有名な選手と同組、厳しい組み合わせ、結

果予選敗退 (6 艇中 4 位) も、本人と一緒に漕ぐことで、とても良い経験になったとのこと。翌日の敗者復活戦ですが、予選タイムで勝っていた相手に最後、差され敗北 (4 艇中 3 位)。ボート競技の難しさを観戦しながら感じました。

C 決勝も不得意であるラフコンディションで実力がそのまま離れていない順位決定組で大差をつけられる経験 (4 艇中 4 位) をしました。一方で 3 日間で、2,000m を 3 本漕いだことで、國廣本人が逞しくなったと感じました。

本人もこの大会に参加して、次に向けての課題が明確になったようです。今後、シーズンの集大成であるインカレに向けて更に漕ぎこみ、体力アップに励みます。桃漕会としても、引き続き、サポートして参ります。



寄稿 漕艇部 OBOG 会 幹事長 朽網宣介 (99 年文卒)

バレーボール部の本格活動再開



ナイス・サーブ！ ナイス・ブロック！ ナイス・アタック！
もう1本～もう1本！ ドンマイ、ドンマイ！ようやく体育館に熱気が戻ってきました。球春、現役にとって、待ちに待った公式戦の春季リーグです。久しぶりの公式試合なのか、チームプレーが、ごこちなく見えます。個人トレーニングや距離をとっての練習が数年続いたことも影響しているのか。団体スポーツ（6人制バレーボール）のチーム、選手にとって集合練習、

練習試合、ナイスプレーを喜び合うスキンシップが出来ない程、つらいことはありません。

先ずは声を出してチームプレーをすることが必須であった我々OBからすると、試合中はもっと熱く、もっと声を出せよとも感じます。男子チームの連敗が続く中、チームに対して淡々とやるな、と厳しく講評。現役、OBOGにとって大学時代は正に青春バレーボール！未だ年次シーズンは始まったばかり。男女とも今年は厳しい夏合宿、練習を経てチーム力、個人の技量をアップし、さらに強くなって、秋季リーグに登場することを心から祈念、応援しています。今、国際大会のネーションズリーグが開催されており、日本チーム男子の活躍は目を見張るものがあります。活躍している選手は強豪の欧州に移籍して実力をつけているのです。我が大学チームも自由に活動できる今年は、上部リーグのチームとも積極的に対外試合を行なって強いチームとなることを願っています。



寄稿 バレーボール部（けやき倶楽部）OBOG 会長 岩間俊之（81 経卒）

ヨット部（蹊帆クラブ）OBOG レース活動報告 **シニアが頑張る**



ヨット部のOBOG レースは、全国の三十数校が参加するAクラスディングー全日本大会と関東地区の17校が参加するスナイプ級大会が毎年開催され、若手OBOG から70代までレースと懐かしい仲間との交流を楽しんでいます。

5月27～28日に江東区青海の若洲ヨット訓練所で開催されたスナイプ級大会のフリー（年齢不問）の部には、鈴木明善（S43年卒）と小池正朗（H1年卒）が参戦し、出艇中最長老の鈴木組は艇のトラブルがあった中、ファイト溢れるセーリングで惜しくも入賞を逃すも7位と健闘しました。

スーパーシニア（2名合計120歳以上）の部では、鈴木明善、丹羽秀夫（S43年卒）の同期77歳の古豪ペアで参戦し、強風と変化する風向きの中で快走、明治大学艇に次ぎ2位でフィニッシュ、見事準優勝の成績を収め表彰されました。

また、ヨット部OB会では全国と関東地区のヨット学連OBOGゴルフコンペがあり、ヨットレースと親睦会などを通じて、現役引退後も各校OBOGの多くの方々と長く交流を楽しんでいます。ゴルフコンペでは、優勝を同じ学校が二年連続の場合は、2年目は幹事役を免除となり、全国・関東とも準優勝の成蹊が10月と来年5月の幹事となり準備が大変ですが、優勝を目指して頑張りたいと思っています。

寄稿 ヨット部OBOG会（蹊帆クラブ）前会長 長友康夫（71年法卒）

水泳部からの活動報告

2部完全優勝！！



成蹊大学体育会水泳部は、4月に新入生を迎えて水球班選手32名（内、マネ8名）、競泳班29名（内、マネ6名）の計61名となりました。両班とも日本学生選手権での入賞を目標として日々練習に精進しています。水球班の直近の活動報告となりますが、2023年5月27日（土）に関東学生リーグ戦2部の決勝戦が行われました。相手は四年前に創部し、スポーツ推薦で選手を集め、全学年が揃った順天堂大学でした。「今年こそ、成蹊大学に勝利する」と意気込みを強く感じられました。試合は、序盤こそスコアが競るシーンは

ありましたが、試合結果としては22-12で大差をつけての本学が2部全勝優勝を果たしました。この結果により、日本学生選手権への出場および関東学生リーグ戦一部2部入替戦への出場が決まりました。

今年度から3年ぶり有観客試合となり、決勝戦にも卒業生の方々、応援指導部も駆けつけてくれて選手たちの大きな力となりました。6月25日（日）11:10@日本体育大学建志台キャンパスプールにて一部2部入替戦がおこなわれます。一昨年、無観客での入替戦勝利となりましたが、今回は皆さんの応援の下、昇格を果たしたいと考えております。

水球をご覧いただいたことがない方も、気軽な気持ちで来場いただき、成蹊大学水泳部を会場で応援いただけますと幸いです。



寄稿 水泳部 OBOG 会（蹊泳会）監督 加賀美佳秀（07法卒）

アメリカンフットボール部からの活動報告



我々アメリカンフットボール部 OBOG 会は桜祭りに合わせて総会を開催するのが通例となっていました。しかしコロナ過によりここ4年間はオンラインでの開催を余儀なくされていました。また模擬店を出店するのも常になっていましたが、実際の運営のほとんどは現役部員に頼っていました。しかし現役部員で桜祭り経験者がいなくなってしまっていました。そこで若手 OBOG に協力を仰ぎ、何とか出店することができました。久しぶりの開催であるということ、原則アルコールの販売は禁止であるということ、雨天の場合は中止になってしまうことなど不安の種は尽きないまま、当日を迎えました。晴天ではなかったものの天候は何とか持ち、この日を待ちに待っていた同窓生を中心に予想以上の人出となっていました。売れ残ってしまったら OBOG 会役員で大人買いするしかないかなあ？と思っていたフランクフルトは昼前に売り切れてしまい、追加で買いに走ったほどでした。懐かしい先輩、後輩にも久々に顔を合わせて旧交を温めることができました。様々な困難がありながらも開催にこぎつけていただいた成蹊会関係者の皆様には感謝申し上げます。改めて「桜祭りがないと春は来ない」と実感しました。

売れ残ってしまったら OBOG 会役員で大人買いするしかないかなあ？と思っていたフランクフルトは昼前に売り切れてしまい、追加で買いに走ったほどでした。懐かしい先輩、後輩にも久々に顔を合わせて旧交を温めることができました。様々な困難がありながらも開催にこぎつけていただいた成蹊会関係者の皆様には感謝申し上げます。改めて「桜祭りがないと春は来ない」と実感しました。

寄稿 アメリカンフットボール部 OBOG 会長 瀧川尚己（89文卒）

体育会本部の活動報告 **リーダーズキャンプ！！**

リーダーズキャンプ責任者を務めました体育会本部 2 年の河路大和と申します。



今回責任者として体育会本部の仕事を出来たことを光栄に思います。行事を主催する側のその中でも上に立つものとしての役割を 1 年生のうちから経験できたことはとても貴重であり、これからの人生の大きな財産になると考えます。

昨年までコロナの関係でオンラインでの開催となっていたリーダーズキャンプですが、今年は以前までの宿泊を伴った日程とまではいかなかったものの、すべて対面で行うことが出来たのは来年以降、完全復活に向けて大きな進歩だったのではないかと思います。

今回のリーダーズキャンプを通して、改めて成蹊大学体育会各団体の代表者が集まり、顔を合わせたことで、今年の体育会本部の目標の 1 つである横の繋がりを強化することが出来たのではないかと考えております。

しかし、今回は会場である 5 号館の教室の席の構造上、代表者同士の意見交換を向き合った形で話し合いをすることが出来ず、あまり相互的に話し合うことができなかつたので、これは次回以降への伸び代だと思います。体育会本部にとっても年に一度の各体育会団体からの生の声を一気に聞くことが出来る機会なので大切にしていきたいと思っております。

この行事を無事開催できたことは、多くの助け、ご協力あってこそのものであり心から感謝しております。責任者として不甲斐ない私を頼もしい体育会本部員たちに助けられ、前々から打ち合わせをして頂いた学生部の方々、当日来ていただいた講師の方、当日参加して頂いた各団体の代表者の方々、非常に多くのご支援を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。



寄稿 体育会本部リーダーズキャンプ担当 河路大和（経営 2 年ラクロス部所属）

リスクマネジメント講習会を受講して **勉強してます！**

5 月 15 日（月）18：30～20：00 オンライン（Zoom）による講演会が行われました。体育会の学生が約 150 名受講しました。講師は、㈱ホープス代表の坂井伸一郎社長です。

「社会は大学生をこれまで甘やかし過ぎたと考えるようになっていきます。そのため社会は大学生を大人として扱うように変化しています。この世の中の変化を決して見誤らないようにして下さい」とした上で

『何故、リスクマネジメントをすべきか』

『何が、皆さんが行うべきリスクマネジメントか』

『どうすれば？皆さんはリスクマネジメントできるか』

の 3 点を中心に具体的な事例を踏まえ説明を受けました。

『この機に人格を高めよう！』立派な人柄とは、真実（隠すものがない）誠実（毎日すべきことをする）謙虚（心の謙虚）であると学びました。

※OBOG の方も「もう知っている」「一度聞いた」と云わず学生がどのような講演を聞いているか。同じ内容に思えても具体的な事例による説明は大変参考になります。

是非参加し。学生との共通点を作っていきましょう。

寄稿 OBOG 会長会 副会長 木村明彦（政経 6 9 卒）

事務局から 連合会総会のご案内予告



○体育会 OBOG 会長連絡協議会から連合会への移行は、11月26日（火）に開催する総会で発足します。各 OBOG 会から沢山の方の参加をお待ちします。現役の学生も招待しますので楽しみにしてください。

○前月号（3/25 発行 33 号）では、成蹊学園の花である桜のご案内できず残念なままになりましたが、コロナの感染の影を残し飲食ができない「桜祭」となりました。それでも体育会 OB 会のクラブはヨット、ワンゲル、籠

球、水泳、アメリカンフットボール、テニス、バレーボール、ゴルフ、合気道の各クラブ OB 会が教室を借り久々の交流の機会を作っていました。（写真は 23/3/24 撮影）

○成蹊会の話では、昨今の温暖化傾向を考慮して来年の桜祭は一週間早めて3月31日（日）に開催するよう企画しています。楽しみにしましょう。

○今の現役のクラブを見聞きすると、新入生が集まるクラブとなかなか人集めができず苦しんでいるクラブがあります。ここが踏ん張り処だと思います。成蹊大学のクラブは、色々な時代で栄枯盛衰を経験しています。クラブをどうしたら継続できるか考えてください。苦しい時に現役・OB 会が一緒になって考えてください。誰かが（私が）旗を振り仲間を集めなければいけないと思います。急にクラブが繁栄するものではありません。頑張りましょう。

OBOG 会長会 副会長 木村明彦（政経69卒）

Information 重要なお知らせ

■お知らせ

□ 次号 SMAnews 35号（6月～9月）は、9月25日頃発行予定です。まだ掲載していないクラブも活動状況のアピールのためにこの紙面を活用ください。

掲載責任者 木村明彦